

3
月
号

第302号

いっしん

平成22年(2010年)

本当の安心は
現世幽世と通じた
死生の安心でなければ
なりません

甘木親教会
初代親先生のふ教え

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良郡加治木町朝日町130 発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp ホームページ http://www.7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki

甘木親教会二代教会長 安武文雄大人 十五年祭 平成22年12月23日(祝)



加治木教会 奥津城(おくつき)・・・
戦前にご布教された平島只助先生の奥津城を改築し、
矢野政美親先生はじめ教徒の方々のご遺骨も納められています。

春季霊祭 を迎えるに あたり

あたり

「お彼岸」について調べてみると「彼岸会(ひがんえ)は、雑節の一つで、春分・秋分を中日とし、前後各三日を合わせた七日間のこと。また、この期間に行われる仏事のこと」「天皇の詔として始められた行事であったが、いつの時代も人として、生を終えた後の世界への関心の高いことは同じであり、いつの間にか生を終えていった祖先を供養する行事として定着するに至った」とありました。

天地の恩、親の恩、先祖の恩、社会の恩、いろいろなご恩に恵まれて私達の今日があることがわかる人は幸せであると言えます。

陋屋に住んでいても、親先祖の汗と涙の結晶であることを知る感謝の心のある人は、宮殿のような広大な屋敷でくらしている感謝の心の少ない人より、どれほど幸せであるかわかりません。幸せは足元にあります。「お彼岸」に祖先を供養して、ご恩に報いよう感謝をしようとする文化があることは幸せなことです。

春季霊祭を迎えるにあたり(教会長)P1
甘木親教会 報徳祭 に参拝 …… P2

加治木教会 報徳祭 …… P 3
大口教会 入木田覚氏 講話 ……P4～6
金光新聞 より…P7 教会行事…P8

甘木親教会

報徳祭

ならびに

初代、二代教会長例年祭

二月十七日(水)、甘木教会の報徳祭が仕えられました。報徳祭に引続いて、初代教会長・二代教会長の例年祭が仕えられました。

報徳祭は、安武道義親先生ご祭主のもとご祭典が仕えられ、例年祭は肥前基山教会長 安武勝博先生ご祭主にて仕えられ、その後安武勝博先生より偲びの講話がありました。



甘木親教会の奥津城の梅の花がちょうど開き始めていました。



霊前で例年祭



いただきありがとうございました。一緒にさせていただきました。崎向先生とご一緒させていただきました。田教会崎向先生とご一緒させていただきました。積田教会崎向先生とご一緒させていただきました。依参拝させていただきます。

偲びの教話で安武勝博先生は、信心の師匠でもある二代文雄親先生がよくみ教えになつてあつたことを挙げてお話になられてありました。

「あるとき泊りで研修会があり、就寝前に部屋へ早く戻り同室の先生方の布団を敷いて先に寝ていたが、後から戻ってきた同室の方たちは仲間さんが敷いてくれ当たり前のことと思ひ、敷いてある布団のことはお礼を申すこともなく寝られたが、私達は知らないこととしてお礼申すことを疎かにしてしまうことが多い」といふみ教えをされることがありました。私達は知らず知らずの間にお世話になりご恩を受けていながらも、お礼を申さずご恩に報いることも見過ごしてしまっていることがあまりにも多い。

二代親先生から頂いたみ教えが、大切な内容であることが今日よくわかるようになってきましたと感慨深くお話しになられました。

加治木教会
報徳祭 ならびに
矢野政美大人 例年祭

二月二十一日(日)、梅の香芳しい小春日の中、加治木教会では報徳祭に引き続いて、矢野政美大人例年祭が仕えられました。

長く感じられた厳しい寒波もどこかへと去り、春の訪れを感じる一日でした。

親先生ご祭主もと報徳祭・例年祭が仕えられ、例年祭では親奥様と参拝者代表として信徒総代の方々が政美親先生のご霊前に玉串を奉奠され、皆で霊様にお礼を申し上げました。



講師に大口教会信徒総代(連合会係)の入木田 覚さんを迎え、入信までのできごと、特に五才のときにお母さんに手を引かれて朝鮮から引き揚げて来られたことや、結婚後C型肝炎に罹り手伝いに来てくれたお義母様に導かれて大口教会に参拝されるようになられたことなど、淡々とお話になれるのですが、感銘深いご講話でした。

二回に分けて掲載致します。



平成二十二年二月二十一日(日)
加治木教会 報徳祭 講話 (上)

講師 大口教会総代・
入木田 覚 氏 鹿児島地方教会
連合会信徒部会長



自己紹介

大口教会にお引き寄せいただいた
ています、入木田 覚(さとる)です。
職業はそろばん教室をさせていた
だいています。今は三か所で三教室
させていただいております。

大口教会では信徒総代をさせてい
ただいております。また、連合会では
信徒部の会長をさせていただき、
そのため南九州教区信徒会の委員で、
全国信徒会へ教区の代表の一人とし
て出させていただいております。

地域においては昨年まで自治会長

をさせていただき、長年にわたり同
窓会で毎年開催のお世話役などもさ
せていただいております。七十才に
ならせていただきました。

母に連れられ引き揚げ

五才のとき、終戦となり北朝鮮と
中国とソ連の国境の咸鏡北道(かんきょう
ほう)の阿吾地(あごち)という町から引き
揚げて来ました。終戦と同時にソ連
軍が攻めてきて鉄道が使えなくなっ
ていました。

父は釜山に招集されていました
ので、母は二才と四才の妹二人を背
中と前にからって私の手を引いて徒
歩で引き揚げました。



途中に咸興(かんこう)という町があるの
ですが、そこまで行くにも、ソ連軍
が若い女性を皆連れ去るというこ
とで、白頭山(はくとう)という山など遠回り
をして、山から山へと百三十里の山
道で、東京から京都までの距離を歩
いたのです。

頭を坊主刈りにして顔には炭を
塗って男装して歩いたそうです。途
中で食料がなくなり山水を飲み木の
実を採って凌いだのです。冬は氷点
下二十五度にもなる寒さの厳しい所
です。

八月十五日の終戦を前に、日本が
負けるとの情報が伝わり、八月七日
に咸鏡北道の阿吾地を出発し、咸興
という町についた時には冬を迎える
季節になっていました。

冬の三ヶ月間は、咸興の日明寺と
いう日本人のお坊さんがいるお寺に
逗留して冬を越すことができました
しかし、そこで二人の妹は病死しま
した。

母と私の二人で、昭和二十一年に
釜山から日本に渡ることができ、五
月五日に大口の牛尾に帰り着くこと

ができました。

十七歳の時脊髄カリエス

中学校卒業後、高校へ進学するつもりでしたが、母が引き揚げの疲労から病気になり、弟が三人いましたので高校進学を断念して就職することにしました。

町内にある履物屋に就職しました。当時は御中元や御歳暮に履物を贈ることがとても多くその季節はよく売れていました。

丁稚奉公のようなもので、朝五時から夜の十一時頃まで働いていました。労働基準法などはありませんでしたので、親方の言われることは何でもハイハイと言って従わねばならない時代でした。また、根が正直であつたので働きすぎるということでもあつたと思います。

緒をたてない下駄などが駅に次から次に到着し車力で運んでいました。当時は若さもあつて、肩車で運ぶこともありました。

そのようなムリな仕事と睡眠不足などもあつたのでしょ、医者に

診てもらつと脊髄カリエスでした。背骨がせむしのように曲がつてしまふ病気です。

十七才のときから十九才までの三年間、鹿児島市内の病院に入院することになりました。手術はしませんでした。入院期間は三年と長くかかりましたが、何とか治りました。しかし、その後コルセットを五年間着けていました。順調に快復しました。

C型肝炎に罹患

昭和四十年に結婚し、昭和五十年三十五才の時には郵便局に勤めていました。その頃、郵便局での健康診断で肝臓が悪いという検査結果が出ました。

普通ならば三十という数値が四百以上ありましたので、医者も驚いて、即入院ということをしり渡され、鹿児島市の通信病院に入院しました。入院後、一年間治療をしていましたが、四百という数値が下がりました。

このとき、治らなくても復職しな

ければ給料が半分に減るということで、治っていないのに、いったん復職して一年後に再入院しました。



当時は「C型肝炎」という名前の肝炎はありませんでした。A型、B型などでした。「C型肝炎」は平成になつてからそう呼ばれるようになりました。

今、そのC型肝炎が非常に問題になっていますが、私はC型肝炎に罹つていたのです。

C型肝炎の原因ですが、勤めていた郵便局の近くに産婦人科・内科・外科をされる病院がありました。少し疲れが出て診てもらつと、診

察をしなくとも栄養剤を出して下さり、注射を打って下さいました。

しかし、注射器の取り扱いは今のような一回一回変えるというように使い方はかりではないようでした。簡単な煮沸消毒だけで、使いまわすというようなことが多かったようです。

婦人科で出血多量の時に止血剤として血液製剤を打って手当てをされていたようです。

そこからC型肝炎が広がったようです。その病院の患者さんの多くがC型肝炎に罹っておられました。その九十パーセントほどの方々は亡くなっておられます。

C型肝炎は、痛みはないのですが疲れがひどいのが特徴です。私の場合は完治しましたが、四十年かかりました。

運命を変えるできごと

昭和五十一年、三十六才のとき、私の顔色は悪く入退院を繰り返す状態があまりにもひどく郵便局に復職もできず、家内は美容院をしま

したので、家内の母が心配して名古屋から手伝いに来てくれました。

義母は息子たちが名古屋にいたため名古屋へ移り住んで紡績会社に勤めていました。その紡績会社を辞めて来てくれたのでした。

義母の家族は名古屋に移る前、霧島に住んでいました。霧島神宮駅の一つ向こうの北長野田です。

終戦当時、世の中では皆苦しい生活を送っていましたが、義父の仕事が山仕事で、材木がよく売れとても景気が良かったのです。

そのため羽振りがよく人付き合いも気前もよかったです。あるとき保証人となり、保証人倒れで家財産すべてを売り払わなければならぬようになってしまいました。

義母はその大変な時に、北長野田から国分教会までの十キロメートルほどの道を歩いて日参していたということでした。

汽車は通っていたのですが、汽車賃がなく、お供えするものもないため、義父が飲んでいた酒の一升瓶をからって持って行き、お金に替えお

供えにしていたということです。

今では想像もできないようなことで、歩いて熱心に日参していたようです。国分教会の信國先生には非常にお世話になったようです。

そのような信心経験のある義母が、大口に帰ってきて同居し、賄いをしてくれました。

義母は、朝起きると必ずご神前で天津祝詞を上げていましたし、一キロメートルほどのところにある大口教会の朝六時の御祈念には必ずお参りしていました。

私は、義母が教会参拝している姿をいつも見ていましたし、私の病氣全快や家内の美容院の繁昌をいつも願っていてくれるのもわかっていました。

大口では十一月の末になると気温は氷点下になり水道も凍る中に、参拝している義母の姿を見て「私のために願ってくれているのに、私がこれじゃいかん」と思い、昭和五十二年十一月一日の月例祭の朝、義母と一緒に初めて教会へ参拝しました。三十七才のときでした。(つづく)



「金光新聞」
「あいよかけよ」
読みましよう!
※購読して
みまかせんか?

『金光新聞』を読んで、ある女性に「ほんとうの一心」神に向かう心が出てきたきっかけがとなったことが掲載されていました。それは、「四才で父を亡くし、兄は大学進学で家を留守にした。太平洋戦争末期、空襲で家が焼失、母親は肺結核が悪化し死の淵にあり、一人で疎開した親類宅の漬物小屋に寝かせられた母の看病をしていたとき、神様はほんとうにいるのかな」と怒りにも似た感情を抱いた。しかし母はいつも明るく感謝の気持ち忘れず「どんな辛いことや悲しいことが起きてきても絶対に神様を放してはだめよ」と。そのような中に気づかされたことは、私が本気で信心して何とかしてあげよう! と心に誓い、七年半後、

母は見事に全快し八十五才の天寿を全うした」
過酷な現実の中で、私が本気で信心して何とかしてあげよう! という心は何と美しい「一心」であるかと思わされます。

ご霊神様のおまじない

三月

- 川畑ツネ之霊神 (7日) 昭和44年
 - 中野サ子之霊神 (7日) 平成13年
 - 内村源二之霊神 (3日) 平成5年
 - 信國幾雄之霊神 (6日) 昭和42年
 - 松田セイ之霊神 (8日) 昭和18年
 - 矢野クラ之霊神 (13日) 昭和31年
 - 松田モト之霊神 (15日) 昭和62年
 - 信國徹志之霊神 (18日) 昭和52年
 - 津上陸奥之霊神 (29日) 平成4年
 - 本中野金四郎之霊神 (30日) 昭和4年
- 「先祖のご霊神様の、現世、幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。
立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。
教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

このような親の願いに応えようとする「一心」を持って信心の歩みを進めて行きたいものです。
『金光新聞』にはとっても良いことがたくさん掲載されています。
お広前にも置いてあります!

あしあと

加治木教会行事記録

2月

- 1月 報徳月例祭 節分祭 10時半
- 3(水) 甘木親教会月参拝日
- 4(木) 甘木親教会初代立日御祈念 10時
- 7(日) 多良木教会報徳祭 11時
- " 西鹿兒島教会報徳祭 12時
- 8(日) 斎掃御用 10時
- 10(水) 月例祭 10時半
- 12(金) 矢野政美大人立日(祈念) 10時
- " 高千穂教会告別式
- 14(日) 上荒田教会 報徳祭
- 17(水) 甘木親教会報徳祭 11時
- 18(木) 甘木親教会「同蓋会」
- 20(月) 御用奉仕
- 21(日) 加治木教会 報徳祭 11時
- " 引続き矢野政美大人例年祭
- 22(月) 月例祭(祭典のみ後付) 13時半
- 28(日) 斎掃御用 10時

三月二十一日(祝)

春季霊祭 奉行

※霊祭申込用紙をお結界にお届け下さい。

三月十三日(土)・十四日(日)

午後二時より 午前十時より

※十三日は主に初心者

典楽会

鹿兒島教会にて
会費・昼食費など 一〇〇〇円

琴・龍笛(横笛)・笙・箏

三月二十六日(金)～二十八日(日)

甘木親教会

交歓会

対象：新中一～新高卒

四月一日(木)

月例祭に併せて

勸学祭 奉行

健康な成長と学業成就の御礼と
お願いを申し上げます。

四月三日(土)～四日(日)

「教話」「祭典」四日 十三時～
天地金乃神様

御本部御大祭 参拝

出 発：三日 午前八時
帰 着：四日 午後八時半頃
交通機関：レンタカー

教会行事

3月

1(月) 報徳月例祭 10時半

3(水) 甘木親教会月参拝日

9(火) 斎掃御用 10時

10(水) 生神金光 月例祭 10時半
大神様

青年会 20時

13(土) 矢野クラ刀自立日御祈念 10時

典楽会(初心者)トス

14(日) 典楽会(初心者・経験者)

15(月) 若婦人会 13時半

19(金) 斎掃御用 10時

21(祝) 春季霊祭 10時半

22(替) 月例祭・共励会 13時半

26(金)～28(日) 甘木親教会(少)「交歓会」

28(日)～30(火)

甘木親教会「教会子弟の集い」

28(日) 連合会信徒研修会

31(水) 斎掃御用 10時

少年少女会 青年会 若婦人会は、都合により日
程を変更することがあります。
随時連絡しますのでお気を付けて下さい。

三月二十八日(日) 午前十時半～
鹿兒島教会にて

連合会信徒研修会

対象 信徒総代・輔教(連)地区委員女性委員

4月

1(木) 報徳月例祭 10時半

3(土) 甘木親教会参拝日

4(日) 御本部天地金乃神大祭

9(金) 安武孝子姫三十五年祭(甘木)

斎掃御用 10時

10(土) 生神金光 月例祭 10時半
大神様

10(土)～11(日)

甘木親教会 青年の集い

15(木) (連)執行部会 10時半 上荒田教会

21(水) 斎掃御用 10時

22(木) 月例祭・共励会 13時半

25(日) 甘木親教会 御大祭

26(月) 甘木親教会 御大祭

29(祝) 多良木教会御大祭 11時

30(金) 斎掃御用

